



現在、再生可能エネルギーの中でも風力発電は世界中で一番注目を浴びているといっても過言ではありません。

日本においては20ギガワット以上の大型の風力発電は政府の買い取り価格が太陽光パネルに比べて約半分に設定されています。風力発電の設置は年々増加しています。新設の発電容量の占める割合は世界の約0・4%にすぎません。

電の設置に関しては国土の面積なども大きく影響し、一概に比較することは難しいといえますが、日本の占める割合はまだまだ低いといえます。

また、海上の風力発電は最も注目されており、世界の主要国で開発が進められています。日本においても浅い海底に固定する「着床式」としては国内初の洋上風力発電の設備が千葉県銚子市の沖合約3キロの海上に

耐性や運用についての実証実験を行う予定となっています。設置場所の水深は約12メートル、風車の高さは約126メートル。風の条件が良い時点で一般家庭約1200世帯分の電力使用量をまかなえる計算をしています。

一般的に洋上では、障害物が無い分、陸上より安定的に強い風力が得られるため発電効率が高く、今後の展開に期待されています。このように、海上の風力発電の技術開発が進められるとともに、規制緩和の動きも活発になってきました。

### 注目の新エネルギー⑧

## 海上の風力発電に期待

新設の発電容量が一番大きいのは中国で世界の約40%を占めています。欧州ではほぼ横ばいですが、米国ではオバマ政権の後押しもあり、前年度比約30%の伸びを示しています。風力発

設置されました。

この施設は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構と東京電力が約35億円の事業費をかけ建設したもので、来年1月から約2年間、台風や地震への

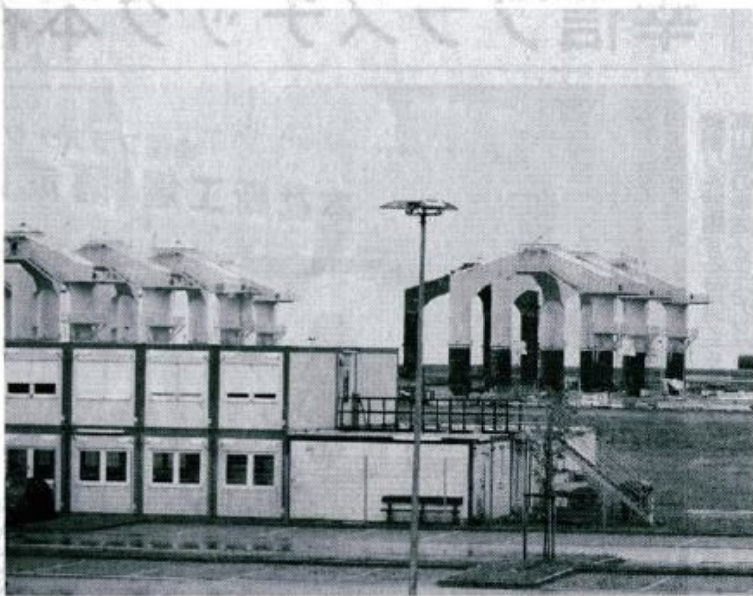
再生可能エネルギー普及に関して大きな課題のひとつであった送電に関する規制もこのほど緩和されました。このことで、自家発電の導入が進むことも期待されています。

例えば、企業が自家発電した電力をグループ会社へ送電する場合、発電設備に関する規制も厳しかったのが緩和されるなど、よりグループ会社間での送電がしやすくなりました。これらの規制緩和は発電で発生する排熱を冷暖房や給湯などに利用する熱エネルギーの供給システム(コージェネレーション)などの普及につながると期待されています。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

第2、第4、第5水曜

日掲載



ドイツでは洋上の風力発電所の建設も盛ん。巨大な風力発電機を支える台の製造現場